

頂いた蘭の花を切った後の球根に、とても珍しく母が水をやっていました。「蘭は難しいと聞くよ」と言うと、「ダメでもともと」と言いながら、いつも水をあげていました。

急に母が亡くなり、引っ越すことになり、行き場のないその鉢植えを持っていくことにしました。

「『ダメでもともと』だよ」と呟きながら、母の命だと思い、水をあげてもらっていました。

一度、伸びていた枝がダメになり、ここまでかと思いましたが、新しい枝が横から出てきました。

大事、大事にし、六つ蕾が出来ました。

ある日、一つ花が咲きました。次々と花は咲き、全ての花が咲きました。

奇跡だと思いました。母の命のリレーだと思いました。六つの花を眺めながら、その中に母を見たような気がして、涙が溢れました。

残念ですが、次の年は育たず、土に帰りました。それもまた、母のような気がしました。

バトンを渡された。小さな命のリレーがそこにありました。

笹原由理